

ですよね、私は。大変なときに私も勝手なこととして、1,500万円ぐらいのコンバインを勝手に買って、これ、どこからお金出したんだなんて聞かれると、小さな子供に、お父さん、裸の王様だなんて言われました。意味が分かんなかった。裸の王様のこと分からないのでね。みんなのために私が効率的にやろうと思って、やってること全く理解してないんですよ。子供に言われるのはかちんと来るのかどうかは別にして、そんなこと、従業員の人が言うわけはなくて、会社のことと思って、みんな、一生懸命頑張ってる中で、代表がそういうふうに判断したんだろうなって諦めもあるんだろうけども、そんな金あんたら給料上げてくださいますかと言いたかったんだろうなんて今、ふと思いますよね。仕事が忙しくて、大変なの、十分分かります。隅々まで職員の声に耳を傾けていただいて、むしろ自分の意見に反対のこと言う人ぐらい脇に置いていただけるほうが市政運営がうまくいくのではないかなと思うときが私もありますので、ぜひいろんな思いで今後とも市長には頑張ってくださいと思います。

全く関係ないんですが、卒業式に市長においていただいて、はなむけの言葉をいただきました。子供たちも市長の話もよかったという話を私も聞いておりますし、大変ありがたかったなと思っております。

学校長からはヘレン・ケラーのお話もありましたし、これからの子供たちに夢の実現とかを考えていただく、もちろん市の職員の若い人も市役所内で頑張れる雰囲気、そういうことを思っただけのような管理職や市長、副市長であってほしいとお願いも含めて申し上げておきたいと思います。

最後に、全く関係ないんですが、これも私の大好きな歌が1つあって、ここで歌を歌うわけにいけないので、歌詞だけちょっと一言ご紹介申し上げますと、「明日への手紙」という手嶌

葵さんの歌なんですけども、元気でいますか、大事な人はできましたかと、いつか夢はかかいますかと、この道の先で覚えていますか、揺れる麦の穂、ある夕映えと、地平線続く空を探し続けていた、明日を描こうとしながら今、夢の中へ形ないものを描き、そっとそっと抱きしめて進むんだと。当然、市長だって悩みもありますし、職員だってみんな、悩みもありますよ。その大きさも小ささもありますが、それも含めてみんなで言ってほしいし、悩みながらも全体として前に進む長井市役所を目指していただきたいと思ひまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 ここで暫時休憩いたします。
再開は午後3時20分といたします。

午後 2時56分 休憩

午後 3時20分 再開

○鈴木富美子議長 休憩前に復し、会議を続行いたします。

次に、政党代表質問を行います。

鈴木英則議員の質問

○鈴木富美子議長 順位5番、議席番号2番、鈴木英則議員。

(2番鈴木英則議員登壇)

○2番 鈴木英則議員 公明党の鈴木英則です。今日、最後の一般質問となりました。公明党としての代表ということで、3月の定例会の一般質問を3項目について行わせていただきます。

1項目めは、子宮頸がん予防、ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの接種について

です。

厚生労働省によると、国内で子宮頸がんて亡くなる方は年間で約2,900人とされております。若くして亡くなったり、治療で子宮を摘出したりすることもある一方、早期に発見されれば、治療で比較的治癒しやすいがんとしております。

1つ目は、本市におけるHPVワクチン予防接種の状況について、健康推進担当課長にお伺いいたします。

2つ目は、このHPVワクチンを男性が接種することで、HPVが原因となる中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマなどの予防に効果があるとされております。加えて、男性がワクチン接種による感染予防をすることで、性交渉によるHPV感染から女性を守り、子宮頸がんの予防につながるとされております。厚労省では一昨年8月に男性の定期接種化について議論が始まりましたが、その結果はまだ報告はされておられません。しかし、男性にも定期接種が行われている国は既に39か国にも上っていて、イギリスやオーストラリアでは男女ともに接種率が7割を超えております。国内でも既に接種に助成している自治体が9団体、県内でも南陽市が昨年6月に開始したとのこと。また、先日、東京都においても半額助成するとのこと、令和6年度の予算案に計上するとの方針が1月11日のニュースで報じられておりました。若い市民の命を守り、病気からのリスクを回避するためにも、本市でも男性の接種を推進すべきと考えますが、当局の考えを市長からお伺いいたします。

2項目めとして、中学校の部活動の任意加入導入による生徒の校外活動への送迎についてです。

中学校の部活動の任意加入制導入は、部活動が生徒の自主性、自発的な参加により行われるという現行の学習指導要領の趣旨を踏まえ、学

校に設置している部活動への加入は任意とするよう体制を整備するなど昨年の3月の県の部活動改革ガイドラインで示されました。確かに学校の枠を超えて、柔軟に校外活動を選択できることは交通手段の整った都市型の地域では有効であると思いますが、一方、本市のような交通手段が難しい地域にとってはどうしても現状では保護者による生徒の校外活動の送迎の機会が増え、保護者の負担が増加するのではないかと懸念がされます。保護者の共働きが当たり前で、送迎の時間を取って、応じることが難しくなっています。まして核家族化が進み、祖父母の応援も難しくなっています。さらに、子育てタクシーの利用も考えられますが、利用が通常料金と同等で、子育て世帯の家計の負担は大きいものとなり、不安を抱えている保護者の声も聞きました。校外における活動については学校教育の範囲外であることから、難しい課題かもしれませんが、何かしらの支援が必要ではないかと考えております。教育長からお考えをお伺いいたします。

3項目めとして、介護に携わる人材の確保についてお尋ねいたします。

都道府県が推計した介護人材の需要を見ると、2025年度末には約245万人が必要であると推計されます。介護に携わっておられる方は、時間や体力や精神面で本当にご苦労されながらも、献身的に働かれています。しかし、訪問介護の報酬が引き下げられたことで、ますます人材確保は厳しい状況に置かれていると思われます。それでも人材の確保の必要性はあると思います。

そこで、訪問介護の報酬改定の内容についてお聞きしたいのと最近のデジタル技術の活用でICTや介護ロボットの導入など含めて人材確保に効果があると考えますが、特にICTについては、事務作業とか、そういったものが職員の方でもたくさん発生している状況なんです、これをデジタル技術を使って軽減するという部

分も結構効果が大きいと思います。今後、どのようにして対応していくのかを長寿介護・地域包括支援センター担当課長にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終了します。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 公明党の鈴木英則議員のご質問、3点ほどいただいております。私のほうからは、子宮頸がん予防のためのHPVワクチンの接種状況についてということでご質問いただきましたので、答弁申し上げます。

私からは、(2)の男性がワクチンを接種することでHPVが原因となる中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマなどの予防に効果が期待でき、さらに性交渉によるHPV感染から女性を守り、子宮頸がんの予防にもつながるとされているが、長井市の取組についてということでご提言をいただきました。

HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス、HPVということですが、の感染を防ぐワクチンで、定期接種の対象者は女性のみとなっております。男性については、議員からもありましたように、令和2年12月に薬事承認されまして、4価ワクチンが任意接種として接種可能になったということでございます。鈴木英則議員おっしゃるとおり、男性がHPVワクチンを接種することは中咽頭がんや肛門がん、性感染症である尖圭コンジローマなどの予防に効果があるということでございます。また、HPVは性交渉によって感染しますので、男性から女性への感染を防ぐことができ、子宮頸がん等の予防につながるということでございます。今後、定期接種の対象者に接種勧奨を行うとともに、男性がHPVワクチンを接種することで本ウイルスに関連するがんの発症を予防する等々についてホームページ等で周知してまいりたいと思います。

また、男性のHPVワクチン接種は、定期接種化を検討するワクチンの一つとされておしま

して、今後、国の厚生科学審議会（予防接種・ワクチン分科会）において、男性を含めたHPV関連がんの基本的知見、ワクチンの有効性や安全性などについて慎重に審議されるということでございます。こうした専門家による議論の動向を注視するとともに、定期接種化が早急に図られるよう、国に要望してまいりたいと思います。

なお、鈴木英則議員からありました全国で9の自治体、あと、東京都でも支援するというような動きでございますが、南陽市では県内で唯一、これを奨励してるということでございますが、聞くところによりますと、平成9年4月生まれから小学校6年生までの男性が南陽市は対象になってるようでございます。12歳から27歳までということなんです。

なお、推奨として任意で9歳以上が受けられるということでもございますので、今後の動き等々について私どももできますれば、先ほど申し上げましたように、定期接種化が早急に図られるように国に要望しつつ、県内外のそういう状況を注視しながら、今後の検討にしていきたいと思います。

○鈴木富美子議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私には、これから新たに任意入部制に伴っての校外活動等について、送迎等の配慮等がないかという趣旨のご質問だと思います。それについてお答えしたいと思います。

まず、このことを答えるに当たって、今年度から様々な部活動等について説明等もありますし、今ちょっと新たな動きもありますので、これらを踏まえた上でお答えしたほうがいいかなと思いますので、まず、そのご説明に時間をいただきたいと思います。

議員もご存知のように、今年度、この部活動というよりも地域の中でどういうふうにご子供たちの活動を保障して、伸ばしていくかという趣旨で生徒、保護者、地域、それから関係団体と

の話合いをしてきました。その中で紹介もしてきましたし、ご意見も頂戴してきたところがあります。今のところ、これらについても途上と
いいですか、まだまだいろいろ調整しなきゃいけない、進行中であるということもちょっとご理解いただきたいと思います。その上でお話をさせていただきます。

まず、先ほどお話ししましたように、令和6年度から部活動の任意加入制が導入されること
になります。これによって中学生の放課後の活動、かなり大きく変わるなと捉えているところ
です。これまでは学校主体で準備されたもの、いわゆる部活等々の中で何を選択するかという
非常に狭い選択肢しかなかったのです。中には、そういうことがあって、小学校のときせつかく
習い事続けてきたのに中学校に行ったらやめな
きゃいけない、別の部活に入らなきゃいけない、
そんな例もありました。先ほどもご説明しまし
たが、本市で進めているのは部活動の受皿づく
りではないということ、まず、これ、確認をし
ておきたいと思います。子供が主体的に興味を
持ち、参加し、活動できるその環境を地域の
人々の力を借りて、多様な選択肢を整える、こ
の一義にあります。このことをまず、ご承知お
きいただければと思います。

この1年間の中で任意入部制を踏まえて、非
常に多様なクラブが立ち上がってまいりました。
ちょっと例をご紹介します。まず1つは、
先日、DXコンテストに参加しました地域ICT
クラブ、これはグラフィックデザインアニメ
ーションという映像制作をする、主体のクラブ
であります。加えて、令和6年度中に立ち上
がる予定のものも幾つかあります。一つは、先
ほど文化のほうでもありましたアメフラシ、地
域の美術、アーティストの主体になってこの
アメフラシの村上さんが中心になって、美術作
品の制作をしたいという美術デザインクラブ、
仮称、としていきたいと思います。これがまず、

立ち上がる予定であります。それから、いわ
ゆる今、子供会のジュニアリーダーというの
がありますけども、これを地域活動のクラブに
したいということで、ジュニアリーダー育成
クラブ、これが2つ目です。さらに、ちょっと
前後しますが、先ほどの美術デザインクラブ、
同じように美術制作をもう一歩進めて、地
域おこしに活用したという方がいらっしや
います、佐藤さんという方ですが。彼も多
くはいわゆる部活動をさらに進化させなが
ら、地域おこしに生かしたい。それを中
学生、またはさらに高校生ですか、小学
生、もしかしたらいろんな広がりもある
かもしれません。そんなクラブを今、立
ち上げる予定であります。それから、ス
ポーツと言ってもいいのだと思いますが、
eスポーツクラブ、これも立ち上がる予
定であります。さらに、今、検討中
ですけれども、マインクラフトという
ゲームあるんですが、三次元のずっと
ブロック積み上げて、まちを作るとい
うのがあるんですけども、これを通
したマインクラフトクラブ、仮称、
というのを立ち上げたいと思ってい
るところもあります。加えて、これ、
どうなるかわかりませんが、今、
地域のほうで小・中学生かな、
ダンスでいろんな行事で参加して
る方もいらっしやいます。これも
もしかしたらクラブという位置づけ
になるのかもしれませんが。この
ように、今までは部活動という
ことがあって、本当はしたい
けどできなかったというものが
様々な形で新しいクラブとして
立ち上がるという動きがあ
ります。ここの大きな特徴
ですけども、中学校にまず、
限定してないところが非
常に多いです。ですから、
中学生が高校生になっ
ても続けてもらいたいし、
できれば中学校に入る
前から小学校の習い事
と同じような延長でや
ってもらえればという
希望もあるようであり
ます。つまり、小・中・
高という参加する年代
を超えた非常に縦軸の
広い、そして長い活
動になっているとい
うことです。これは多
分、まちづくりにと
って

は非常に大きな力にこれからなるかなと私は個人的に思います。

今年度、令和5年の12月に長井南・北中学校で意識調査を行いました。1年生、2年生、今度の新2年生、3年生ですけれども、こんな結果です。学校の部活動に加入するというのが38.7%です。4割。それから、校外で活動できる、いわゆるスポ少クラブで頑張ってる子もいますけれども、そっちに行くというのが実数でいうと9.4%。それから、1、2の両方に加入する、これ、二通りあると思います。部活動で足りない分、さらにクラブで力を尽くしたいという子供、それから部活動は、例えばバレーだったんだけど、土日は別な競技してみたいという子もいるかもしれません。これ、両方に加入するというのが、今のところ、そんな気持ちを持っているのは20.4%。それから、どっちにも加入しないという子も7.5%います。迷っているというのが23.9%です。まず、4人に1人は、今のところ、迷ってるということです。この数字についても、これからどういうふうな方向性でいくのかというふうなところもまだ分かってない段階のもやもやした中での答えですから、それもちょっと踏まえていただければありがたいと思います。

先ほどお話ししましたが、部活にもクラブにも参加しない。じゃあ、それ、何もしないのかという、いろんなことが考えられます。例えば今、既にSPIKEでけん玉やってる子供たちもおります。これもそっちに入るかもしれませんし、それからうちに帰って、私はちょっとお菓子とか、クッキング、何かそんな勉強したいなという子もいるかもしれません。または今、「くるんと」ができましたから、あの「くるんと」の図書館に行って、そこで浸り切って、読書をしたいという子もいるかもしれません。そのように考えると、様々な活動、それらの可能性が出ているというのは先ほどお話ししたとお

りです。部活で頑張る子、学校を飛び出して、様々な場で学びに取り組む姿といういろんな姿がありますが、これは長井市が目指す多様性のある社会の一つの姿でないかなと私はむしろ前向きに捉えているところです。言い換えるなら、よく大人でもワーク・ライフ・バランスというふうに言いますが、学校と第三の居場所を使い分けた、新たに主体的に考える場であるだろうと。大きくいえば、今、市が標榜しているウエルビーイング、そんな一つの大事な生き方になるのかなと思ったところです。

そのようなことを考えますと、これからの議員のご質問のお答えになるのかもしれませんが。まず一つ、先ほどお話ししました小・中・高通した活動ですから、これで中学生にだけ助成するとか、そういう支援をするというのは現実的でないかなと思います。加えて、小学校では当然、スポ少とかピアノとか、習い事してる子供おりますが、これはおうちの人とよく話し合っ、おうちの人で責任で行ってるわけです。それがまず、原則でないかなと思います。したがって、中学生とか部活でできない子だから助成するという考え方よりも、むしろ今、大事なことは、それらはまず、取っ払いながら、とにかくいろんな活動を保障することとその選択肢を増やすこと、それを市民の皆さんに知っていただくこと、これが大事だなと思いますし、ある意味ではこれは学びを通したまちづくり、これにつながっていくのだらうなと思います。まずはそこにこちらで力を傾注したいと思います。

ただ、一方で、心配なのは、これは学校からも出てるんですが、何もしたくない子とか、そういう子もこれから出てこないとも限りません。それはその生き方として話しなきゃいけないし、それが悪いということではないと思いますが、そういったいろいろな子供のニーズとか、そういった特性に応えながら環境を整備していく、まずはこれ、大事にしたいと思いま

す。

それから、もう一つは、こういった中で、格差というか、そういうのも心配されることもあります。これ、課をまたいで、全体として話し合っていくべきものかなと思います。現段階のところではこのようなお答えになることをまず、お許しいただきたいと思います。

○鈴木富美子議長 塚田恵美子健康推進担当課長。

○塚田恵美子健康スポーツ課健康推進担当課長

私からは、1つ目の子宮頸がん予防のためのHPVワクチンの接種状況について、(1)本市におけるヒトパピローマウイルス(HPV)予防接種の状況についてお答えいたします。

HPVは女性の80から90%が一生に一度は感染すると言われるウイルスで、感染してもほとんどの人はウイルスが自然に排除されます。しかし、持続感染し、がんになってしまうことがありますので、子宮頸がんなどを予防するためにワクチン接種は有効なものです。定期接種の対象者は小学6年生から高校1年生相当の女子ですが、現在、キャッチアップ接種として、ワクチンとの因果関係が否定できない持続的な疼痛などが接種後に見られたことから、積極的勧奨が差し控えられ、接種機会を逃した方も公費での接種対象となっております。令和4年度から積極的勧奨が再開され、対象者には個別に通知しております。今年度は未接種者も含め853人の方に接種勧奨の文書と予診票を送付いたしました。ワクチンは種類によって2回から3回接種しますが、今年度4月から12月までの間で1回目を接種した方は、定期接種対象者505人中51人、キャッチアップ接種対象者675人中79人でした。昨年度接種した方は、定期接種対象者27人、キャッチアップ接種対象者15人でしたので、接種者数は増加していますが、まだまだ少ない状況です。

HPVワクチンは、子宮頸がんの予防に効果があり、接種による有効性が副反応のリスクを

明らかに上回ると認められています。今後も、ホームページや市報、個別通知を通し情報提供を行ってまいります。

なお、キャッチアップ接種対象者の公費による接種は令和7年3月で終了となりますので、未接種者に再度個別通知し、ワクチンの有効性、安全性に関する情報提供を行いながら、接種機会を逃さないように取り組んでまいります。

○鈴木富美子議長 渡部和喜子長寿介護・地域包括支援センター担当課長。

○渡部和喜子福祉あんしん課長寿介護・地域包括支援センター担当課長

私からは、問3、介護に携わる人材の確保について、(1)介護に携わる人材の確保が厳しい中でICTや介護ロボットの導入など効果があると考えられるが、どのように対応していくのかについてお答えをいたします。

初めに、介護人材確保におけるICT、介護ロボット導入についてですが、厚生労働省の介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン、介護現場革新会議基本方針において、介護ロボット、センサー、ICT活用により職員が介護サービス提供に集中し、生き生きと働くことができる環境をつくることが重要であるとされております。令和6年度介護報酬改定でも介護現場の生産性向上が示され、事業所が介護ロボットやICT等を導入し、業務改善を行う場合、新たに生産性向上推進体制加算が設けられております。内容としましては、見守り機器、インカムなど職員間の連絡調整を迅速化するICT機器、介護ソフトやスマホなど介護記録の作成を効率化するICT機器を導入して、職員が働きやすい環境づくりに取り組んだ場合に介護報酬に加算されるというものです。また、県では、現在実施している介護ロボット導入支援事業費の補助事業に加えて、令和6年度から介護生産性向上総合支援センターを設置し、相談窓口の設置、介護ロボットやICT機

器の展示や使用貸出しなど、介護事業所に向けたワンストップ型の支援を実施します。

令和5年6月に市内介護保険事業所に行った聞き取りでは、何らかの介護ロボットを導入しているという4事業所からは介護ロボットの導入で職員負担が軽減した、利用者の安心安全、現場の業務効率化につながったとの回答がありました。反面、介護ロボットをよく知らない、介護現場で使うことに抵抗があると、導入をしていない事業所もあり、介護ロボットに対し周知を行い、理解を深めていただくことが大切だと考えております。

令和6年3月8日開催の長井市介護職員養成・確保支援意見交換会、そして3月28日の介護保険事業所集団指導にて、介護ロボットやICT機器導入の効果、国や県の支援について情報提供を図り、事業所における導入促進、介護生産性向上につながるよう取り組んでまいります。

令和6年度につきましても、同様に、情報提供など、県の支援と連携した取組を実施してまいります。さらに、介護施設のデジタルトランスフォーメーション化を支援するため、スマートシティ事業と連携して、介護現場でのICT、人材育成セミナーなどの開催などを検討してまいります。

次に、令和6年度の訪問介護の介護報酬につきましては、現行マイナス2%と示されました。厚生労働省の介護事業所経営実態調査にて、ほかの介護保険事業所と比べて訪問介護事業所の収支差率が高かったことが減算改定の理由の一つです。一方、サービスごとの介護職員の処遇改善加算率は、訪問介護は全サービス中、最も高く設定されております。サービスの単価は下がりますが、従事する職員の処遇は改善されると見込まれます。事業所が適切に加算取得を行えるよう、先ほどの介護保険事業所集団指導などで十分に情報提供を行ってまいります。

○鈴木富美子議長 2番、鈴木英則議員。

○2番 鈴木英則議員 HPVワクチンの助成という形を取ってるところもありますし、また、男性に効果的だということで、それを市のホームページで実際に出してるところもあるようです。そういう取組をされてるところが千葉県の流山市です。私は、結構、男性、子宮頸がんの予防ワクチンは女性だけの特有のものというふうなことで、ほとんどの方がそういう認識でいると思います。私も実はそのように思っておりました。ただ、実際に女性だけじゃなくて、男性にも効果的だというようなことで、今、国への要請というか、それ自体はすごくそうなんですけども、市としてそういうホームページ等で男性にも効果がある旨の通知というのはしたほうがいいのかなどというふうに思いますが、その辺について、市長のお考えをお伺いします。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 先ほども申し上げましたけれども、まだ私どものほうでは南陽市みたいな形で無償でワクチンを推奨するというようなことはしておりませんが、男性も受けられるような、そういった任意接種も含めてできるということなどのPRは、受けたという方もいらっしゃるかもしれませんが、そこのところは情報として提供したいと思います。先ほどもホームページ等で周知していきますと申し上げてるんですけども、改めてそのように考えておりますので、よろしくお願ひします。

○鈴木富美子議長 2番、鈴木英則議員。

○2番 鈴木英則議員 失礼いたしました。

情報として通知していただくことによって、実際に関心等によって、また、国へのそういった公費的な部分で開始されたときにそういう接種率の増加にもつながると思いますので、そういった部分では市長の今、ホームページでの通知をするというようなことで言われたことについて、公費というふうな部分ではないけども、

そういう情報提供として接種率の向上に努めていただくということでは本当にありがたいと思います。

あと、2項目めとして上げております中学校の部活動の任意加入制について教育長よりお伺いしまして、小・中・高も含めた形でいろんな形態があるということでも分かりました。私も同じ中学生とか、お子さんをお持ちの親御さんとお話したときに、実際にまだはっきりとした部分での予想というか、その不安とか、そういった部分での話もありましたので、それでこの機会ということでお聞きしたわけでありませう。

それで、実際に今後、もうすぐ令和6年度となりますけれども、部活動に対しての認識という部分で何か迷ってる方が20何%、高いわけなんですけれども、今後、部活動に対しての取組については例えば強豪校であったのがそうでなくなるとか、そういうふうな懸念というのは何かそういう現場からは上がってきたりとかはしてないでしょうか。

○鈴木富美子議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 今のは多分、スポーツ部ですね。これもいわゆる学校の部活のスタンスというのがありますから、こういう任意加入制になったからあながち弱くなるとか、そういうものではないと思います。むしろ部活動の位置づけというのも変わってくるのかなと。例えばサッカーですと、いわゆるクラブのほうはより高みを目指して、さらに高校、さらにその上を目指してという子供たちがもう、どちらかという、集まってくるだろうし、今の中学校の部活動ではそこまで頑張らねたっていいんだけど、でも、サッカー好きだから楽しみたいというのは、じゃあ、中学校で受け入れますかというような話もしているようです。ですから、何か部活はとにかく勝利至上主義で、強くなんなねという発想ではないと思います。繰り返しになりますけれども、私たちは部活をどうするかというふうには

は考えておりません。当然、もっとクラブで強くなりたい子はクラブに行く子もいるだろうし、それからバスケのほうではさらにそういうものを目指したクラブもあるんです。バスケットでさらに世界とか日本を目指すクラブを立ち上げますよというクラブもありますから、それぞれの特徴をつかんで、子供、またはおうちの人が選んでいくという時代になってくるのだろうなと思います。そこはちょっとご理解いただきたいなと思います。

○鈴木富美子議長 2番、鈴木英則議員。

○2番 鈴木英則議員 次に、介護についてお聞きします。

I C Tや介護ロボット等については結構、高価な部分であったりするわけなんですけれども、それに実際に使いたいんだけど、国、県から半分補助、助成来るんだけど、それでも見合った投資ができないということで、できないところもあると伺ってますが、リースなり、そういった少ない方法でとかというふうな分での方法というのは考えられますでしょうか、お伺いします。

○鈴木富美子議長 渡部和喜子長寿介護・地域包括支援センター担当課長。

○渡部和喜子福祉あんしん課長長寿介護・地域包括支援センター担当課長 ただいまの高額な介護のロボットですとかI C T機器、そちらの導入についてリースなど、そういったところを考えられないかというご質問でしたけれども、来年度、県の事業のほうで介護ロボット、I C T機器の展示や使用貸出し、そういったところを行うと聞いております。具体的にどのような事業になるのかというところはこれから県のほうと情報、そういった面も併せまして情報収集しまして、事業者のほうには伝えてまいりたいと思います。

現在のところ、実際にリースを行っているかというところなんですけれども、そちらについ

ては、今のところ、情報はまだ入ってきておりませんので、情報が入り次第、事業所のほうにもお伝えしたいと考えております。

○鈴木富美子議長 2番、鈴木英則議員。

○2番 鈴木英則議員 介護についてはそういったICTやロボットの導入によって少ない、効率的な、生産性を上げるということでは本当に今後、課題になるんじゃないかなと思いますので、そういった導入しやすいような形が出ましたら、情報等を事業所さんにお伝えして、導入向上のほうに結びつけていただきたいなと思います。

早いようですが、以上で一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

散 会

○鈴木富美子議長 本日は、これをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時06分 閉会